

川崎市北部のハネナガイナゴ

雛倉正人*

Records of *Oxya japonica* (Thunberg) in the northern district of Kawasaki City

Masato HINAKURA*

ハネナガイナゴ *Oxya japonica* (Thunberg) は、水田や湿性草地に生息するイナゴ類で、農業によって一時激減したが、1990年代に入って回復傾向にあるという(日本直翅類学会,2006)。神奈川県では局地的分布を示し、川崎には多摩区西生田で1960年代以前の古い記録があるが、近年の生息状況はよくわかっていなかった(浜口・中原,2004)。最近改訂された神奈川県レッドデータ生物調査報告書では、準絶滅危惧種とされている(浜口,2006)。

筆者は、多摩川と多摩丘陵の一角で多数の本種を確認することができたので、記録しておきたい。標本は川崎市青少年科学館に保管されている。

採集および観察記録

1 ♀, 麻生区黒川谷ツ公園, 11. VIII. 2006, 筆者撮影。

公園内の湿地で羽化していた個体である(写真1)。(印刷物では縮小されて見えないが)本種特有の腹部第3節のトゲが認められたため、同定可能であった。

1 ♀, 麻生区はるひ野, 9. X. 2006, 筆者採集。

保全緑地内の湿田で採集。ほか複数目撃した。

上記2つの記録については、特定外来生物影響調査(川崎市北部公園事務所委託)の一環として行ったものである。後日、近隣の黒川の稲刈り後の水田脇で、コバネイナゴに混じって複数の本種を観察している。黒川周辺には本種が広く生息している可能性が高い。

1 ♂, 多摩区登戸多摩川, 17. X. 2006, 筆者採集。

登戸の多摩河川敷には、水辺の楽校と呼ばれるワンドの一带に整備されたジオトープがあり、池の周辺で極めて多くの本種を観察している。ここでは他所で普通に見られるコバネイナゴはむしろ少なく、異質な印象を受けた。また筆者は、川崎に隣接する稲城市内で本種を記録しており(雛倉,2006)、ほか次の未発表採集例もある。

1 ♂, 稲城市大丸多摩川, 5. XI. 2006, 筆者採集。

本種は、河川敷の水辺に近いイネ科雑草の多いところで少数観察されており、登戸における本種の大発生は、本種の生息に適した場所が人為的に創出されたため生じた可能性が高い。

以上のように、2000年代半ば、川崎北部とその近傍のハネナガイナゴは、河川や谷戸の湿性草地において確認されており、8月に羽化した成虫は11月上旬ごろま

で生存する。市内のより詳細な生息状況の解明が待たれる。

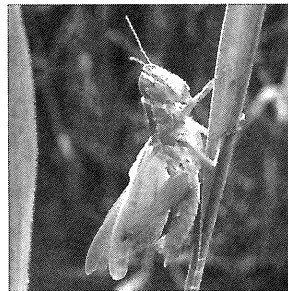


写真1
ヨシに止まって羽化するハネナガイナゴ♀
黒川谷ツ公園



写真2
稲穂に止まるハネナガイナゴ♂
はるひ野

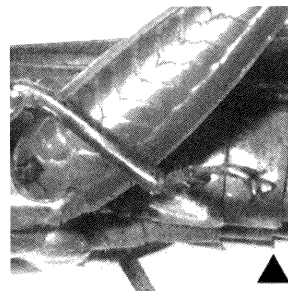


写真3
♀下腹部のトゲ



写真4
♀生殖下板のキール
(一対の平行状の隆起)

♂も尾端の形状や生殖器構造で区別可能である。本種の上翅はコバネイナゴより長く、先が広がる傾向にあるが、擦れて短くなると、種としての特徴が不明瞭になることもあるので要注意。

文献

- ・ 浜口哲一,2006.バッタ類.神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006,神奈川県立生命の星・地球博物館,小田原:325-330.
- ・ 浜口哲一・中原直子,2004.バッタ目.神奈川県昆虫誌I,神奈川県昆虫談話会,小田原:139-188.
- ・ 日本直翅類学会,2006.バッタ・コオロギ・キリギリス大図鑑.北海道大学出版会,札幌.
- ・ 雛倉正人,2006.東京都稲城市で採集した昆虫類(第1報).神奈川県虫報(155):23-28.

* 特定非営利活動法人かわさき自然調査団

